第６学年　体育科学習指導案

令和２年11月６日（金）第５校時活動場所　理科室
男子15名　女子14名　計29名
高知市立十津小学校　刈谷　泰邦

１　単元名　「感染症から命を守ろう」（病気の予防）【保健】

２　単元について

病気の予防についての学習は，病気の発生要因や予防の方法及び喫煙，飲酒，薬物乱用が健康に与える影響について理解したり，身近な生活から病気の予防に関する課題を見付け，よりよい解決に向けて思考し，判断して表現したりすることをねらいとしている。主な学習内容は，「病気の起こり方」「病原体が主な要因となって起こる病気の予防」「生活行動が主な要因となって起こる病気の予防」「喫煙，飲酒，薬物乱用と健康」「地域の様々な保健活動の取組」である。

本単元の学習を通して，病気の原因と予防の仕方を科学的に理解し知識として身に付けるとともに，自らの生活習慣を見直し，健康な生活を送ろうとする態度を養いたい。また，喫煙，飲酒，薬物乱用は，それらの害を正しく理解し，自分の健康は自分で守り実践していける力を身に付けさせたい。さらに，健康な生活を送るための方法として，地域では，保健に関わる様々な活動が行われていることを知り，生涯にわたって健康に生活するための基礎知識を習得させたい。

３　児童の実態

昨年度末の本学年児童の体育授業における総括的授業評価結果は，全校と比較して『楽しむ』『わかる』『できる』『まもる』の４観点ともに評価得点が低い傾向にあり，自尊感情の低さや積極性に欠ける面がみられる。

⑴　知識及び技能

保健領域の学習においては，８月に行った事前調査では，『自分は健康だと思うか』という問いに対して，29人中25人が「とてもそう思う」「そう思う」と肯定的に答えている。『病気にならないために気をつけていること』は，現在の新型コロナウイルス感染症対策の取組から，手洗い・うがい・マスクが挙げられていたが，食事や睡眠，運動といった生活習慣に関することを記述している児童は少なかった。『自分の知っている病気』では，新型コロナウイルス感染症やインフルエンザが多く挙げられ，次いでがんや熱中症なども挙げられている。話題に挙げられる病気についての知識はある程度あるが，予防法についての知識は十分ではないと考えられる。

⑵　思考力，判断力，表現力等

本学級の児童は，全体的に素直で真面目な集団であり，男女間でも協力して取り組むことができる。しかし，消極的で自ら声を出して行動できる児童が少ない。また，受け身の学習状況があり，常に思考させる手立てが必要な集団でもある。

そのため本単元の学習では，タブレットを活用して，病気の予防について調べたり，情報を共有して，グループで話し合ったりすることで，より自信を持ち，意欲的に思考を深めていくのではないかと考える。

⑶　学びに向かう力，人間性等

本学級の児童の多くは，前述のアンケートからも分かるように，様々な情報から「病気の原因と予防」については漠然と知っている。また，低学年時の学級活動などで学習した風邪や虫歯など身近な病気の予防の仕方についてもある程度は理解し実践してきている。しかし，正しく認識し行動化できている児童は少ない。

そこで，今回の学習を通して，感染症や病気の予防に対する正しい知識を学び，これまでの生活や行動を振り返り，自分たちの生活にどのように取り入れていくのか考えさせていきたい。そして，世界的な問題となっている新型コロナウイルス感染症の予防へとつなげ，地域社会の一員として何ができるのかを考え行動化につなげていきたい。

４　教師の指導観及び研究テーマとの関わり

研究主題	「たのしい　できそう　いっしょにもっと！運動好きな十津っ子」 ～保健の見方・考え方を働かせる学習過程の工夫～	
研究仮説１	「保健領域では，子どもが自身の生活習慣や生活環境等から課題を見付け，その解決に向けた学習活動を展開することができれば，自分の健康に目を向け，楽しく明るい生活を営もうとする十津っ子に伸びていくであろう。」	
手立て１ 単元 デザイン	◎知識 ◎思考力・判断力・表現力等 ○学びに向かう力，人間性等	単元前半では，今世界中で流行している感染症（新型コロナウイルス等）の予防策を考えていくものとする。病原体を体の中に入れない事や病原体に対する体の抵抗力を高める事，そして，望ましい生活習慣を身に付ける事が必須であることを理解できるようにするとともに，自分自身の健康に目を向け正しく病気を予防し健康管理することが出来るようにする。 単元後半では，生活習慣が原因で起こる病気や，地域の保健活動等についても総合的に学ぶ大単元を構成し，健康で丈夫な体を作り，望ましい生活習慣を身に付けるようにする。
手立て２ 環境 デザイン	○知識 ◎思考力・判断力・表現力等 ◎学びに向かう力，人間性等	タブレットを使って，病気を予防するための課題や，地域にある健康や命を守るための活動を調べたり，それらの情報の共有を図ることで，病気の予防についての知識を習得するとともに，病気を予防する方法を考え説明することができるようにする。
手立て３ かかわり デザイン	○知識 ◎思考力・判断力・表現力等 ○学びに向かう力，人間性等	受け身の学習をさけ，児童一人ひとりが思考し，問題解決学習を通して，健康安全に過ごし自分の生活を見直していけるように，グループ学習を取り入れる。
手立て４ フィード バック デザイン	○知識 ○思考力・判断力・表現力等 ◎学びに向かう力，人間性等	学習課題に迫ることができたと同時に，自分にとって新たな知識として何を学んだのか，学びを今後の生活にどのように生かしていくことができるかなどについて交流しながら，健康への意識を高めることができるようにする。

５　単元の目標

(1)　病気の予防について，課題解決に役立つ基礎的な事項を理解することができるようにする。【知識】

⑵　病気を予防するために，課題を見付け，その解決に向けて思考し判断するとともにそれらを表現することができるようにする。

【思考力，判断力，表現力等】

⑶病気の予防について，健康や安全の大切さに気付き，自己の健康の保持増進や回復に進んで取り組むことができるようにする。

【学びに向かう力，人間性等】

６　単元及び学習活動に即した評価規準

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①　病気の起こり方について理解したことを言ったり，書いたりしている。 ②　病原体がもとになっておこる病気の予防について理解したことを言ったり，書いたりしている。 ③　生活行動が主な要因となって起こる病気の予防について理解したことを言ったり，書いたりしている。 ④　飲酒や喫煙，薬物乱用が体に及ぼす悪影響について理解したことを言ったり，書いたりしている。 ⑤　地域の様々な保健活動の取り組みについて理解したことを発言したり，書いたりしている。	①　病気の予防について調べたことをもとに，課題解決の方法を見つけたり，自分の生活と比べ関係を見つけたりし，それらを説明している。 ②　健康を守るための地域の保健活動について教科書や資料等を使って調べたりしたことを説明している。	①　病気の予防について，自分の生活を振り返ったり，課題解決に向けての話し合いや発表などを通して学習活動に進んで取り組もうとしている。

7　指導と評価の計画

時間	1	2	3	4	5	6	7	8（本時）
学習活動	【単元を通しての課題】病気の予防について理解し，身近な生活において健康で安全な生活を営むためにどうしたらよいのかを考える。							
	●病気の起こり方	●病原体と病気	●生活の仕方 （生活習慣病）	●生活の仕方 （虫歯の予防）	●喫煙の害	●飲酒の害	●薬物乱用	●地域の保健活動
学習内容	○病気は，病原体，体の抵抗力，生活行動，環境がかかわりあって起こることを知る ・今までに自分や家族がかかった病気や，知っている病気を発表する。 ・病気は，病原体，体の抵抗力，生活行動，環境などがかかわりあって起こることを知る。	○病原体が主な要因となっておこる病気には，インフルエンザや結核，麻疹，風疹などがあることを知る。 ○その予防には，病原体が体に入るのを防ぐことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であることを知る。 ・病原体がもとになっておこる病気の予防の仕方，感染の道筋にはどのようなものがあるか考える。 ・病気の起こり方について理解したことを言ったり書いたりする。 ・病原体がもとになっておこる病気はどのように予防できるか考える。	○生活行動が主な要因となっておこる病気には，心臓や脳の血管が硬くなったり詰まったりする病気があることを知る。 ○その予防には，日常的な運動習慣と望ましい生活習慣を身に着ける必要があることを知る。 ・生活習慣病の原因について調べる。 ・自分の生活を振り返りその課題について説明する。 ・生活習慣病を予防するためにはどのような生活をすればよいかを考えて，発表したり書いたりする。	○生活行動が主な要因となっておこる病気には，虫歯や歯茎の病気があることを知る。 ・虫歯はどのように進行するのか考え，自分の生活を振り返りながら予防の仕方を確認していく。 ・歯周病について調べる。 ・虫歯，歯周病の予防の仕方をまとめる。 ・自分の生活を振り返りその課題について説明する。 ・虫歯，歯周病を予防するためにはどのような生活をすればよいかを考えて，発表したり書いたりする。	○喫煙は，健康を損なう原因となることを知る。 ・たばこの害について調べる。 ・受動喫煙の害について調べる。 ・若い時期からの喫煙の危険性について調べる。 ・喫煙が体に及ぼす影響を考え，喫煙を進められたときにどうするか話し合う。	・飲酒は，健康を損なう原因となることを知る。 ・酒の害について調べる。 ・若い時期からの飲酒の危険性について調べる。 ・飲酒が体に及ぼす影響を考え，飲酒を進められた時にどうするか話し合う。	○薬物乱用は，健康を損なう原因となることを知る。 ・薬物の害について調べる。 ・薬物乱用による社会的問題について調べる。 ・薬物を進められた時にどうするか話し合う。	○健康を保つために保健所や保健センターなどで保健にかかわる様々な活動が行われていることを知る。 ・地域の保健活動について調べたり，まとめたりし，それを全体に説明する。 ・学んだことと自信の生活とを関連付けて考え，これからの自分の健康を保つためにどうしていくか考える。
☆見方・考え方を働かせている児童の姿	☆病気の起こり方について考え，ワークシートに記入したり，発言したりする姿。	☆「病原体をなくす」「体の抵抗力を高める」「病原菌の感染経路を断ち切る」の３つの観点から，病気の予防を説明している姿。	☆生活習慣病の原因となる生活習慣について，自分自身の生活を振り返り，具体的な行動を発言したり，記入する姿。	☆虫歯の原因となる生活習慣について，自分自身の生活を振り返り，具体的な行動を発言したり，記入する姿。	☆喫煙しないほうが良い理由を，自分や周りの人への影響を理解し，発言したり，記入する姿。	☆健康への影響を考え，酒とのかかわり方を記入する姿。	☆心身に与える害や薬物乱用が引き起こす問題，依存性，法律での禁止などを踏まえて記入する姿。	☆タブレットを活用して，保健所や保健センターの予防活動を調べたり，グループで話し合ったりする姿。
★評価規準と評価方法	【知】① 発言・ワークシート	【知】② 【思・判・表】① 発言・ワークシート	【思・判・表】① 【主】① 発言・観察・ワークシート	【知】③ 発言・観察・ワークシート 【主】①	【知】④ 【思・判・表】① 発言・観察・ワークシート	【知】④ 【思・判・表】① 発言・観察・ワークシート	【知】④ 発言・観察・ワークシート	【知】⑤ 【思・判・表】② 発言・観察・ワークシート

☆保健の見方・考え方
　疾病や傷害を防止するとともに，生活の質や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ，
　「個人及び社会生活における課題や情報を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること」

８　本時の学習と指導（８／８時）

⑴　ねらい

・人々の健康を保つために保健所や保健センターなどで保健にかかわる様々な活動が行われていることを知る。

【知識】

⑵　準備物

タブレット，電子黒板，ワークシート

(2)　展開

	学習内容・活動	○指導上の留意点　　◆評価（方法）
導入	１．先進国と発展途上国の乳幼児の死亡率の原因について考える。 ・９０万人という数について考える。 ・死亡率の違いの原因について考える。 （予想される発言） ・水，食料 ・病気や医療 ・経済力，戦争　等	○６ヶ国の乳幼児の死亡率を比較し，先進国と発展途上国の違いについて考えさせる。 ○死亡率の違いの一番の要因は，先進国では病気に対する予防がきちんと行われていることを知らせる。
展開	２．予防について考える。 ・病気の予防にかかわりの深い人はだれか考える。 （予想される発言） 養護教諭，校医，病院の先生　等 ・どのような予防があるか考える。 （予想される発言） ・予防接種，内科検診，歯科検診 ３．学習のめあてを確認する 保健所や保健センターはどんな活動をしているのだろう。 ・保健所や保健センターの活動について，タブレットを使って調べ，ワークシートにまとめる。 ４．調べたことを共有しまとめ，発表する。 ・どこで，だれに，どのようなことを行っているのか，班でまとめ発表する。 ５．ゲストティーチャーの話を聞く。	○既習事項や児童の経験から思い出させる。 ○予防接種や検診は，学校だけでなく，保健所や病院，保健センターで行っていることに気づかせる。 ○どこが，誰に，どのようなことを行っているのかが明確になるように，項目ごとに書いてまとめさせる。 ◆地域の様々な保健活動の取り組みについて理解したことを発言したり，書いたりしている。 （発言・観察・ワークシート） ○保健所や保健センターなどでは，子どもから高齢者までを対象として，健康保持のために様々な取り組みを行っていることに気づかせる。 ○病気の予防の大切さや自分の生活の中で気を付ける大切さについて気付かせる。
まとめ	６．今日の学習についてまとめる。	○自分の生活へ振り返させる。

９　授業後の話し合い

・導入部分で子どもたちが課題意識をもてていた。
・母子手帳など身近なものがありよかった。
・タブレットを活用して保健センターの活動を調べ付箋に書いたり，それらを世代ごとに分類したりしたことは思考を深めるためによかった。
・付箋に書く作業と世代ごとに分類する作業を同時に進行すれば，時間が節約され，全体共有の時間が持てたのではないか。
・タブレットを活用する場面では，タブレットが２人に１台での使用だったため，活発な児童が操作することが多く，分担する手立てがあればよかった。
・あらかじめ保健センターの活動内容を提示しておいて，それらについて調べるようにすると，より詳しく調べることができたのではないだろうか。
・本時で調べたことを共有する時間が十分にない中でゲストティーチャーの話へ移ったため，少しわかりにくかった。
・ゲストティーチャーの話として，本時の内容に沿った話をするのか，全体的なまとめとしての話をするのかは，目的によって考えるとよい。本時までの学習に沿った指導をもとに，児童から復習もかねて聞き出せることができたらより良かった。

１０　授業の考察

(1)授業デザインにおける実践内容と実践結果の考察

〈手立て１〉
・現在，新型コロナウイルス感染症が流行していることもあり，ウイルスによる感染や感染の道筋を断つ手立てなどを，より身近な問題として考えることができよかった。
・子どもたちは，病気になった後の治療について関心が高い傾向が見られたが，今回の学習で予防の大切さや，地域における様々な予防活動を学習することができた。

〈手立て２〉
・タブレットを活用して調べ学習を取り入れることにより，自分の調べたいことをより詳しく調べたり，また友達の調べたことや考えを簡単に共有したりするなど，思考を深めることができた。

〈手立て３〉
・学習班を主体としたグループ学習で行ったが，タブレットが２人に１台しかなかったこともあり，活発な児童に活動が偏ってしまった。

〈手立て４〉
・ゲストティーチャーとして養護教諭から，健康な生活を送るために大切なことを中心とした話を聞くことで，より一層日々の生活の中で病気の予防についての意識が高まった。

(2)アンケート等から見る児童の変容

・授業後の児童の感想において，風邪やインフルエンザだけでなく，新型コロナウイルス感染症などについて，ウイルスに感染する怖さや，また感染を防ぐためには手洗い，うがいだけでなく，規則正しい生活習慣や食生活の大切さに改めて気づくことができたといった感想が多く，自分の今の生活習慣を見つめなおす機会になった。
・感染が原因の病気だけでなく，生活習慣病や薬物乱用等については日頃の生活の中で耳にする機会はある程度だったが，詳しく調べることでその怖さや健康の大切さに目を向けることができた。

(3)今後の課題

・基となる授業デザインが運動領域の学習を主体に考えられているので，その形式に保健領域の学習を当てはめるように授業を考えるのは大変難しかった。今後は保健領域の学習に応じた授業デザインについても系統的に考えていくことが求められる。
・小学校高学年で生活が乱れ始めるころにこの学習をすることで，健康な体には規則正しい生活習慣が大切だということが再認識できとてもよかった。この気づきを中学生へとつなげていきたい。
・ICT を活用することによって意欲的に調べたり，友達の考えを主体的に共有したりすることができたが，それに多くの時間が費やされたため，ICT を取り入れた学習について，より効果的な活用方法を研究していく必要がある。